資料02

市民と議会の意見交換会

報告書

令和４年５月 21 日（土）開催

Ⅰ　市民と議会の意見交換会の概要　……　1

Ⅱ　テーマごとの質疑・意見【要旨】　……　2

Ⅲ　参加者アンケートの結果　……　35

長 野 市 議 会

Ⅰ　市民と議会の意見交換会の概要

１　主　催　　長野市議会（意見交換会実行委員会）

２　日　時　　令和４年５月21日（土）午前の部　午前10時～正午
　　午後の部　午後１時30分～３時30分

３　場　所　　長野市役所第一庁舎７階　第一・二委員会室
　　長野市役所第二庁舎10階　講堂

４　各テーマ別意見交換

テーマ１「持続可能な農林業を目指して　～農業の持つ魅力について・林産業を活性化して長野市の森を守る～」
【農林業振興対策特別委員会】

テーマ２「災害から自分たちの命を守るために　～適切な避難を考えよう～」
【災害対策等調査研究特別委員会】

テーマ３「善光寺御開帳後の観光誘客の取組とスポーツコンベンションの推進について」
【観光戦略調査研究特別委員会】

テーマ４「公共交通について　～あなたが利用できる公共交通とは～」
【公共交通対策調査研究特別委員会】

５　参加者　　52人の市民等の皆様にご参加いただきました。そのうちの13人の方がオンラインでの参加でした。
　　託児所はお一人利用され、手話通訳のご利用はありませんでした。

特別委員会ごとにテーマを決めた意見交換会形式での開催は、今年度で４回目となりました。コロナ禍により意見交換会の開催自体は３年ぶりとなりましたが、オンラインでの参加方法を加えるなど、感染症防止対策を講じて実施しました。参加者からのご意見をお聴きし、市政に反映させていくことに重きをおいた運営としています。

各テーマ別会場の運営は、司会、記録など、各特別委員会の委員が務めました。

Ⅱ　テーマごとの質疑・意見【要旨】

意見交換会で出された質疑・意見、それに対する今後の対応について報告します。質疑・意見は要約してあります。

持続可能な農林業を目指して
～農業の持つ魅力について･林産業を活性化して長野市の森を守る～
【農林業振興対策 特別委員会】

参 加 者：15人（うちオンライン参加者５人）
出席議員：◎松木　茂盛、〇松田　光平、倉野　立人、黒沢　清一、
加藤　英夫、鈴木　洋一、近藤　満里、小泉　栄正、和田　一成
【◎委員長　〇副委員長】

（意見交換）

参加者①【芋井地区】

・地区で定年帰農者が増えている。新規就農者の育成をお願いしたい。荒廃農地を市民農園として活用できないか。傾斜地だが市街地より近いので、日帰りクラインガルテン（※１）のアイデアもあるのでは。

松木　茂盛　委員長

・長野市は新規就農者支援を農業委員会の協力も得て、多様な担い手の確保において、研修・営農資金に対する助成を行い、就農者は増加している。

参加者②【安茂里地区】

・親から相続したリンゴを栽培しているが、単価は20年前より下がり収入が少なすぎ生活できない。荒廃農地が増加し、少子化、後継者不足の解消が

全国的な重点課題だ。

松木　茂盛　委員長
・定年退職者が農業を支えている現状。農業収入だけでは経営できないので、農業収入について対策する必要性があり、また、多様な世代が農業経営できる体制作りも必要と委員会でも協議している。

参加者②【安茂里地区】
・定年退職者が雇用延長で農業従事者が減少している。当然に農業従事年数も減少するので、このような社会構造の変化にも対応が必要である。

参加者③【信更地区】
・70代になると体力が衰え、農業投資にも躊躇する面がある。早期退職による農業従事者への補助金検討や、また親元支援事業などを積極的に行うよう市に求めたい。

参加者④【大岡地区】
・荒廃農地が増加しており、守るべき農地の選択も必要。今日の農業は圃場の集約化集積化などの整備を行ったうえで大型機械購入するなどの資金力が必要。さらに農業が好きなリーダーづくりが大切。農業を守る仲間づくりが重要だ。

参加者⑤【川中島地区】
・夕張メロン、山形サクランボなど地域の気候に適した高級特産品がある。千曲川ワインバレーに取り組む市町村が増え、長野市はワイン用ブドウの適地でありワイン特区の申請をしてワイナリーを建設すべきだ。

参加者⑥【豊野地区】（オンライン参加）
・有害鳥獣対策も荒廃農地防止に重要。認定農業者基準を下げ補助対象を広げる検討も必要。林業に対する支援制度の周知で企業参入促進を図るべき。また、若者の意見を聞く機会を増やしてもらいたい。

参加者⑦【若槻地区】
・認定農業者の基準となる所得目標に達成する耕作面積が必要か明示し所得補償をしていくべき。また、米や小麦などは輸入を中止して国内生産すべき。

参加者⑧【浅川地区】
・米中心の農業の時代ではない。認定農業者制度など補助金があっても、傾斜地や田面積より畦畔が広いところでは効果がない。大規模な圃場整備を望む。

参加者⑨【朝陽地区】
・長野県はシャインマスカットや野菜等生産額ベースが優れているのでさらに、振興すべき。若者が賃金を得ながら農業を学ぶなど、認定農業者を目

指す場所の提供をすべき。また、稼げる農業のシステム作りを行い、若者参入を促進すべき。

参加者⑩【吉田地区】（オンライン参加）
・農林水産業は、国の基幹産業であるという位置付けの周知や対策が不足している。市は国に対して所得補償をするよう働きかけるべき。市においても独自施策を施し農業収入の安定化を図るべき。

参加者④【大岡地区】
・長野市は果樹生産が盛んで、特に若穂では構造改善事業が進んでおり、他地域への事業拡大を議会も支援してほしい。認定農業者の所得目標は無理な数字ではなく、農業者から農業経営者としての意識改革も含めて指導していくべき。

参加者②【安茂里地区】
・今、農業は個人か、企業など組織、集団営農かの岐路にあると思う。使用頻度の低い機械も個人では購入しなければならないことを考えると、今後は、総合的な集団経営になっていくべきと考える。

参加者⑪【吉田地区】（オンライン参加）
・国が農作物の価格保証（価格安定法）や食料自給率を上げるための政策をすべき。長野市農業公社が母体の農園を作り、特に若者を採用して大豆や小麦、米の生産する取り組みを提案する。余剰作物を廃棄せず、買い取り保管して、その後市場へ出してはどうか。

参加者⑦【若槻地区】
・複数の農業機械の保有は個人では大変、団体で共同保有して土地を守ることが必要。また農閑期の収入確保も課題。林業は輸入をやめ、日本の森林を活用するべき。

参加者①【芋井地区】
・長野市バイオマス産業都市構想を評価する。薪ストーブを使用しているが、長野市の利用率などの告知が不足している。市の公共施設や学校で使用するなど、地産地消のため利用促進施策が必要。

参加者⑫【小川村】
・小川村は傾斜地の畑が多く、高齢を理由に農地耕作依頼に応じている。農

業機械化が必須。勤めか年金かの兼業農業しかないのが現状。地域おこし協力隊も含め、若い人の意見を聞き、稼げる農業のため積極的支援、定年帰農者に向けた政策を施してほしい。

参加者⑧【浅川地区】

・先代から譲り受けた山を下草刈りや枝打ち、間伐をして育ててきたが、現在の住宅には木材使用が減少していると感じる。林業も機械化が不可欠で個人で営林することへの支援も充実してほしい。

参加者⑬【芋井地区】（オンライン参加）

・私自身、林業に携わる者として課題が多いことを皆さんのお話から感じた。林業の担い手は絶滅寸前かと思う。市の補助の体系や組織は他の自治体より手厚いと感じている。議会も林業界の活性化を後押ししていただきたい。

参加者⑭【安茂里地区】（オンライン参加）

・台風19号災害や凍霜害、コロナ、高齢化や後継者難で離農し耕作放棄地が増加している。土地所有者と支援者農業経営方針もあるので、情報提供や安心感を行政が率先してコーディネートしてほしい。

参加者①【芋井地区】

・林業の衰退は木材の輸入自由化が発端。林業は大型機械が必要で機械化環境のための林道整備など充実していないのが現実。オーストリアのように、山林管理士制度の導入を国に要望してはどうか。

松田　光平　副委員長

・本日は貴重なご意見をありがとうございました。ワイン特区や、針葉樹から広葉樹の植林、若い人の参入支援や国との連携、儲かる農業、集団経営の推進等多岐に渡りお話しを伺いました。

松木　茂盛　委員長

・いただいた皆様の声が生きるように議会として、市の政策決定に提言して参りたい。今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※注釈

※１クラインガルテン　会員制農園クラブのことで、西洋などでガゼボ（東屋）付き農業コロニー

【特別委員会の今後の対応】

農林業に関する貴重なご意見を頂戴しました。農業の担い手づくりには、若者への就農支援や儲かる農業を確立することが必要で、また、定年延長による定年帰農者の減少といった課題への対応も求められています。産地形成への支援によりワイン用ぶどうの生産量が伸びており、ぶどう生産者によるワイナリー開設に向けた動きもみられる中、長野市が申請を予定するワイン特区の認定を契機に中山間地域の新たな産業として期待がふくらみます。

林業振興については、水源涵養や国土保全といった森林が有する公益的機能が災害防止につながることからも、これまで以上に力を入れて取り組むべき課題であり、フォレストワーカーの育成のほか地域産材の普及促進など、更なる林産業全体の活性化施策が必要と考えます。

いただきましたご意見をもとに委員会で論議を重ね、国の制度の積極的活用や森林環境譲与税を有効活用する施策を推進するよう農林部へ提言をしてまいります。

災害から自分たちの命を守るために　～適切な避難を考えよう～
【災害対策等調査研究 特別委員会】

参 加 者：18人（うちオンライン参加者３人）
出席議員：◎佐藤　久美子、〇鎌倉　希旭、市川　和彦、竹内　茂、
青木　敏明、東方　みゆき、西脇　かおる、三井　経光、
松井　英雄　　【◎委員長　〇副委員長】

参加者①【信州新町地区】

・長野市の治水対策委員会・調査会の委員をしている。その会議で話されている内容と議会へ伝わっている情報の内容に乖離がある。意見交換会の中でお伝えしたい。

参加者②【豊野地区】

・台風 19 号で被災した。医療的ケア児がいる。子供のこれからを考えて災害の時どう生活するか。地域防災に関心があるが、当事者の声が行政等に反映されていないとの思いがあり参加した。

参加者③【栗田地区】

・市内大学看護学部関係者。
・地域に大学があり医療的専門職者がいる。清泉女学院大学と長野医療大学の連携ができないか。医療的ケア児の現状を知ってもらい、高度な医療的ケア児の支援を避難所マニュアルに組み入れていただきたく参加した。

参加者④【芋井地区】

・2019 年災害時、県内外からの災害支援、ボランティア団体と被災地のマッチング等をした経験を踏まえて、民間との連携強化の提案をしたい。自主防災組織はいまだに形だけで実際の災害時に機能しないと懸念している。行政の施策に提案をしたい。

参加者⑤【朝陽地区】

・行政・社協・民間のボランティア団体の共同のネットワーク化に取り組んでいる。
・県外と比較して、長野市や社協の取り組みは災害経験を活かせていない。民間団体の思いと比べ動きが鈍いと考えている。

参加者⑥【若槻地区】

・動物愛護活動をしている。19 号災害時、避難所でペットをかかえる避難者の支援をした。
・ペットは家族とは言いながら、避難所の対応は人命優先である。またペットが居ることによる逃げ遅れ等が無いよう行政、ボランティア団体、地域の方々との連携が密になる仕組みを構築できたらと思い参加した。

参加者⑦【第三地区】

・昨年、防災士の資格を取得した。長野県内には防災士を取得する機会、会場がない。
・防災計画の内容を知りたい。避難行動確認シートの作成が難しいと感じている。

参加者⑧【中条地区】

・地すべり地帯に住んでいる。命を守るためにどうしたらよいか考えたい。

参加者⑨【豊野地区】

・一人ひとりの住民意見を十分に吸い上げて施策に反映してほしい。
・予算ありき、単年度主義では解決しないことがあると考える。
・行政のネットワーク化、行政単独でなく民間と連携した取り組みが必要との思いで参加した。

参加者⑩【川中島地区】

・災害と無縁の地域で生まれ育った。現在の住まいの地域は、急激に住民が

増えた。防災備品を購入しても実際の使い方がわからない。また地域の若者は防災訓練などに関心がない。

参加者⑪【豊野地区】

・台風 19 号災害時、ボランティア活動をした。被災地域と被災しなかった地域で災害に対する意識の差があると感じている。地域一体となって災害について考えたいと思う。

参加者⑫【長沼地区】

・長沼地区は水害常襲地域、19 号台風災害前から内閣府の地域防災計画策定のモデル地区。防災計画、避難ルールブックを策定した。
・被災後、令和２年、水害の検証を含めて長沼コミュニティータイムラインを策定した。
・マイタイムラインとコミュニティータイムライン検証を続けている。

参加者⑬【豊野地区】

・現在、災害公営住宅に住んでいる。避難所で生活していない被災者、みなし仮設に移ってからなど、情報不足で災害関連の情報がほしいと思った。
・マイタイムラインにしても、現在の住居地で作成するものなのか、それとも被災前の住居地で作成するものなのか戸惑った。災害時どこへ避難したらよいのか等、判らないことが多い。

参加者⑭【豊野地区】

・１９号台風災害で自宅が全壊した。被災前から、住民自治協議会女性部会で女性だけで出来る避難訓練を実施してきた。
・豊野西小学校の避難所はすぐ一杯になった。避難所に関する情報が少なく避難所に入れなかった方、在宅避難を余儀なくされた被災者も多かった。避難所の在り方について考えたい。

参加者⑮【豊野地区】

・ずっと福祉の仕事をしてきた。被災後、人の関係こそが地域を作り、人を守ることを実感した。そんな経験をもとに話がしたい。これからやっていくことへ力を貸してほしいと思い参加した。在宅避難の経験、まちの縁側ぬくぬく亭の立ち上げの経験と力、防災交流センター

への思いをお話ししたい。

参加者⑯【三輪地区】（オンライン参加）
・地域の防災組織の役員をしている。避難行動要支援者との結びつき、避難の役割分担を他地区ではどのように取り組んでいるのか知りたくて参加した。

参加者⑰【第二地区】（オンライン参加）
・災害支援のボランティアを続けている。防災士や避難所運営ファシリテーターをしてきた。
・長野市の避難所運営マニュアルの内容を知りたくて参加した。

参加者⑱【古牧地区】（オンライン参加）
・地区役員を経験、台風 19 号災害を通して、防災訓練の大切さを実感している。今後の地域防災訓練の在り方、地域住民の防災への意識、意識の高め方等を考えたくて参加した。

（意見交換）
参加者①【信州新町地区】
・災害後の対応と災害が起きないようにする災害予防と範囲が広い。自分は災害予防の分野。
・河川の状況、情報の連携が行政内で取れていないと実感した。避難情報、指示も必要のない時に出し続けてオオカミ少年のようなことをしていると本当に必要な時に機能しない。
・流域タイムラインの取り組みが進んでいるが、長野市は対応が進んでいない。

佐藤　久美子　委員長
・情報が重要だということはその通りだと感じている。予防防災について委員会としても伝えていきたい。

参加者⑨【豊野地区】
・避難所運営マニュアルには、運営スタッフに女性を入れることや、ペットの問題も入れてある。元気な人間だけが優先される時代だが、大変重要な点をおさえており評価する。
・ライセンス社会だがライセンスに偏重するのではなく、避難所運営ができるコーディネーターが必要だと考える。避難所には必要な情報が集まるが、在宅避難者には必要なあらゆる情報が届かず格差があった。様々な

民間の団体とのネットワーク化と活用が課題だと考える。

参加者⑩【川中島地区】

・水の関係について、犀川はダムがあるので水がどんどん増えることはないが、千曲川にはダムがないので、水位が上昇する。堤防を高くするだけでなく、河床掘削、浚渫を進める必要がある。堤防を作るより河床掘削の方が早いと思う。

佐藤　久美子　委員長

・浚渫について委員会でもかなり意見が出た。立ヶ花を含めて各箇所で浚渫が進んでいる状況。

参加者④【芋井地区】

・今回策定した避難所運営マニュアルは2019年の災害を踏まえて、様々な方面の意見を反映されており評価する。しかし、マニュアルを作ることが目的ではなく、実際に運営がマニュアル通りなされなければ意味がない。周知という体の良い言葉だけでは浸透しない、地域の自主防災組織等までにいかに浸透させるのかの施策が必要。モデル地区を作り実際に避難所運営マニュアルを基に訓練し、組織化することが大切だと考える。

佐藤　久美子　委員長

・市では、このマニュアルを作るにあたって、19 号台風に当時関わった職員からアンケートを取り、その検証をしながら、そこに特別委員会の意見を入れてここまで作り上げたところ。マニュアルの周知・浸透させることがこれからの重大な課題だと思っている。

参加者⑥【若槻地区】

・避難所運営でボランティアの活用をお願いしたい。行政の方々は上から下への指示がないと動けないという状況にある。ボランティア団体は、様々な災害現場で活動して来たので、先が読める、柔軟かつフェーズに応じた避難所での活動が出来ると思う。ボランティア団体を大切にして頂きたい。若い市民の方に避難所での生活を体験して頂き機会を作って

ほしい。

佐藤　久美子　委員長

・ボランティア団体とのネットワークの関係は、私たちも大事な点だと考えている。

参加者⑮【豊野地区】

・まちの縁側ぬくぬく亭は被災者の支援としてスタートしたが、現在は地域づくりの拠点になっている。不登校の子が学校に行けるようになり、その親の話の場でもある。障がい者への地域の理解につながっている。地域で必要なのは『近助』のつながり。ご近所の力が必要。私はあの人を助ける。あの人に助けてもらうのが近所のつながり。でもうまくいかない人もいる。そんな人がぬくぬく亭で、お互いの価値観がわかると、あの人になら話してみようと思い、地域の課題が解決していく。仮称豊野防災交流センターに多世代が交流できるぬくぬく亭的なものをつくりたい。人と人のつながりが地域の活性化につながる。

佐藤　久美子　委員長

・在宅避難の問題点を何点もいただき、そのことも反省点としてマニュアルに盛り込まれた点もある。

参加者③【栗田地区】

・先程ライセンスだけではダメだと言う話があった。資格者を活かしてほしい。２０１９年災害時、保健所長より夜間の避難所へ入ってほしいとの要望で、医療資格者が５０人のチームを作って新しい取り組みで活動した。その５０人は資格＋経験があるメンバーだった。是非、その経験を活かしネットワーク化をしたい。地域の大学との連携強化、日ごろからペーパー上でなく、実際にシミュレーションをするような企画をしてほしい。

佐藤　久美子　委員長

・日頃からの災害時のシミュレーションやネットワーク作りが大切だというご提言をいただき、そのとおりだと私たちも感じている。

参加者⑫【長沼地区】

・長沼住民自治協議会の目標は、一人の住民も見逃さない。全員を救う。そのためには、どうしたら良いか。10 人から 20 人単位の常会が普段から機能していることが必要

・社協のコーディネーターと常会が情報を共有して、ボランティア団体の入る地域や必要数を配置できた。防災では、常会を単位として区をまとめ、住自協で管理して、地域を作っていくことが必要だと思う。

佐藤　久美子　委員長

・一人も取り残さないということで、社協のコーディネーター、ボランティアの受け入れについて、また住自協の役割についてお話しいただいた。我々も要支援者については、議論しており、まだ課題もあるので、引き続き委員会でも議論していく。

参加者⑮【豊野地区】

・情報伝達について、災害時、在宅避難においては情報がなかった。防災行政無線も聞こえない。情報は、スマートフォンやパソコンでと言っているが、災害時は浸水や停電で使えない。スマートフォンのアプリで情報を得ることのできない人もいるし、今後も増えるだろうと考える。スマートフォンでの情報を、それを見られない方々へお伝えする方法が必要だと思う。

参加者⑥【若槻地区】

・災害時のボランティアの配置に偏りがあった。実際、松代地区へのボランティアへの配置が少なく、松代地区の人は、被害が大きかった市北部への遠慮があった。適正配置が必要だと思う。

・避難所の設置に関して、避難所でのペットの対応がなかったので、ペットを飼っている方々は、早々にペット可のアパートを借りて、避難生活を始めた。後に作られたペット可の仮設住宅は空きが出てむだになった。災害当初より、ペットを飼っている方の相談体制があれば良いと思う。

参加者⑤【朝陽地区】

・女性の活躍できる場、またその環境をつくるための予算化をお願いしたい。自分の命は自分が守るは当たり前、他人の命を気に掛ける、近所の人には声をかけることが大切だと思う。

・民間のボランティア団体や活動団体間の意見交換の場を行政が予算化して定期的に開催してほしい。

佐藤　久美子　委員長

・女性の活躍できる場が必要ではないかというお話もあった。今後、災害に向けてどういう体制を作っていくかということも含めて考えていかなければならない。

参加者⑭【豊野地区】

・仮設住宅やみなし仮設住宅が用意されても、そこで生活するための食器に始まり、必要な物資がなく苦労した。地域の協力で布団や食器を貸してもらったが、行政が対応できるように考えてもらいたい。

参加者⑨【豊野地区】

・ボランティアも炊き出し、家屋解体、医療等専門化してきている。得意分野を仕分けして、専門性を把握して、必要とする所へ配置するコーディネーターが必要と考える。

参加者②【豊野地区】

・医療的ケア児の父、2019 年災害時には、福祉避難所の存在を知らなかった。実際、災害時には豊野の２か所ある福祉避難所は使えない状況であった。
・医療的ケア児を持つと避難所へも行けない、結局自宅での垂直避難をするしかない。
・薬の管理や在宅酸素問題もある。停電で電気が使えず医療機器が使えない状況
・今後、避難所へ行けない人の把握等、取りこぼしのない事を希望する。

参加者③【栗田地区】

・実際、参加者②さんのお子さんは避難所へお越しになったが、受け入れすることが不可能だった。避難所での運営を考えるのも大切だが、在宅を含め医療的ケアに必要な電源の確保の検討が必要。現在、日産自動車さんと非常時の電源確保の問題に共同で取り組んでいる。
・災害時の電源確保の検討をお願いしたい。

佐藤　久美子　委員長

・在宅の酸素について、これから議論を進めていくと聞いているので、我々委員も意見を繋げていきたい。

【特別委員会の今後の対応】

今回 18 名と多数の方にご参加いただきました。参加者は実際令和元年東日本台風災害の被災経験者の方や、ボランティア活動経験者や地域の防災活動をされている方、専門職の方等、様々な背景をお持ちの方で構成されており、それぞれの立場から幅広く貴重なご意見をいただきました。

中でも避難所運営マニュアルの内容に一定の評価をいただいた一方で、実際の活用に関する課題のご指摘もいただきました。また、ボランティアの活用と行政との連携の必要性、災害時の情報共有の重要性と地域のネットワークの構築等、「人のつながり」の大切さについてのご意見が複数見受けられました。

行政側の基準やマニュアル作りは重要事項ではありますが、現場の状況と乖離している、当事者の声が届いていないなどのご意見も複数いただき、作成後の活用と当事者の声の反映については課題が残ります。いただいたご意見を踏まえ、引き続き調査・研究を継続していきたいと思います。

また、作成した避難所運営マニュアルや防災学習等情報の周知に力を入れ、市民の防災意識の向上に努めていきたいと思います。

善光寺御開帳後の観光誘客の取組とスポーツコンベンションの推進について

【観光戦略調査研究 特別委員会】

参 加 者：13人（うちオンライン参加者４人）
出席議員：◎西沢　利一、〇金沢　敦志、塩入　学、グレート無茶、
阿部　孝二、箱山　正一、小泉　一真、勝山　秀夫、堀内　伸悟、
宮崎　治夫　　【◎委員長　〇副委員長】

参加者①【安茂里地区】

・スポーツ関係（ブレイブウォリアーズ）を仕事にしている。スポーツを通じて地域に貢献し、街を元気にしたい思いで参加した。

参加者②【芹田地区】

・大学で教鞭。６～７年前に U ターン。地域への貢献のためと、大学で教鞭をとっているがそのテーマでもあるので参加した。

参加者③【大岡地区】

・６年前に県外から移住。自治体のお手伝いをしている。現在の観光は単なる訪問から体験することが主流になりつつある。多様化する観光客に対応するために観光メニューを増やす必要があると思うし、沢山作ってほしいと思う。
・子どもたちが参加できるスポーツ体験メニューが必要（長期的に）、市外から訪れる子どもたちが、大人になって再び長野市を訪問したいと思え

る企画が必要。
・委員会で今まで話し合った中身が生かされているのかどうか聞きたいと思う。

参加者④【吉田地区】
・転勤で埼玉より１年前に移住。旅行業が仕事。
・観光の名所以外にも、サッカー等、スポーツについても魅力がある。市外からの観光客に長野市の魅力をアピールしたい。

参加者⑤【篠ノ井地区】
・戸隠森林植物園でボランティア活動や植林等の自然保護活動、JR と組んで戸隠で観光客に野鳥観察会（バードウォッチング、大人の休日クラブに紹介）、自然観察会等を開催するなど、様々な取り組みをしている。
・野鳥観察会等で長野市に来ていただいても宿泊はタングラムと残念ながら長野市は使っていただけていない。滞在型にどのように結び付けていくか大きな観光のテーマかと思う。また、参加者は説明だけでなく、会話があるということがいいようである。

参加者⑥【朝陽地区】
・議員や行政が観光に対してどのような取り組みをしているのか興味があり参加した。

参加者⑦【上田市】
・他市市議会議員。観光に関連した委員会に所属。長野市内で飲食業に携わっている。サッカー、信州ダービーで出店。スポーツの持つ可能性を感じた。長野市の活動を参考にしたい。

参加者⑧【更北地区】
・長野市やまざと支援金を受け、ボランティアで西山淡竹会（西山地区）として山や畑を整備（２０ha を管理）、淡竹を作っている。特産品にして売り出し、竹の子狩りツアーを１０年間続けている。加えて体験ツアー（農家民泊）、農業体験ツアーをしていたが、コロナ禍で中断していた。徐々に再開したい。

参加者⑨【中条地区】
・参加者⑧と共に西山地区で活動。皆さんとの意見交換で勉強になればと思い参加した。

参加者⑩【坂城町】（オンライン参加）

・京都出身、旅行代理店勤務。観光開発プロデューサー。20 年以上長野に住む。仕事柄感じるところは、長野市は観光上知名度で有利である。県外人にとって「長野」に行くは、まずは「長野市」に行くという意味がある。そこから周辺地区に移動する。現在の観光客は様々な興味を持ち、多面的に行動している。長野市は出入口としてのメリットもある。そこで観光客の出入口は長野市としても、市内だけでなく、市周辺地域との連動性、観光資源の開発、宣伝等を含めた協力が必要ではないか。

参加者⑪【信州新町地区】（オンライン参加）

・観光協会所属。ボランティアとして信州新町の観光協会で仕事をしている。地元では御開帳の影響はあまりない。信州新町には、水上サップ、カヌー、ラフティングのアクティビティ、美味しいサフォーク種の提供等があるので、その魅力を発信したいと思い参加した。

参加者⑫【千曲市】（オンライン参加）

・市内のホテル勤務、旅館組合所属。市外からの観光と宿泊（長野市内に宿泊してもらう）をさらに伸ばしたい。スポーツ観戦、各大会等の誘致も必要であると思い参加した。

参加者⑬【飯綱】（オンライン参加）

・飯綱高原観光協会所属。以前と現在では訪れる観光客の嗜好が変化している。受け入れ体制の変化が求められている。飯綱地区はスキー場が閉鎖になったが、一方で森の駅が設置されたり、パルセイロが地区のグランドを利用したりと地域が大きく変化している。さらにここは観光地でなく住宅地として居住される市民もおられる。今後、この地域としてどの様な動きをしたらよいのか参考とするために参加した。

（意見交換）

参加者①【安茂里地区】

・資料において、「観光客は若年層の割合が少なく、中高年層の割合が高い」との記述があるが、これは市外・県外との意味か。であれば、県外（イ

ンバウンド含む）からの観光客で若年層のためのコンテンツが必要と考えるが。

箱山　正一　議員

・基本、県外からの観光客を想定している。善光寺はやはり中高年の観光客が多いが、若年層を誘客するため、そのコンテンツは必要と考える。それは観光誘客だけでなく、若年層の移住誘致にもつながる。

参加者①【安茂里地区】

・私はスポーツ、バスケット関係に携わっているが最近は多くの若者が訪れてくれている。加えて若者はスポーツを会場で見るだけでなく、SNS で交流して広げるので、他の観光資源とも関連し、さらに２次３次効果もあると思う。

参加者②【芹田地区】

・関連して、観光客は若年層が少ないのでそこに注力するのはわかるが、市としては市内での消費額、経済的効果が重要でもあるはず。必ずしも高額消費者だけをターゲットにする必要はないと思うが、長野市の強みを生かし、どのような層にアピールするか考慮されているのか。

西沢　利一　委員長

・観光が多様化する中で、今までのやり方を変えねばならないと考えている。具体例では体験型観光が主流となりつつある現在、議会としても市が企画しているツアーを体験し、推進していこうとする段階。それぞれの地域にこの体験型のメニューをつくれないだろうかと、長野市で体験をして、市内で泊まっていただいて、こういうような形を模索できないかなと。この活動に対して皆さんから積極的なご意見を頂戴している。

参加者②【芹田地区】

・どこが消費額で優位か考慮する必要がある。研究によるとテーマとしては、自然、温泉、健康関連は消費に期待できない。市にとって経済的にメリットがあるのは、歴史、文化、スポーツであるので、体験ツアーを企画するのであれば、そのコンテンツを組み込んだ方がよいと思われる。特に若年層にアピールするのなら、若年層にマッチするコンテンツを考慮すべき。商品と年齢層をきちんマッチングする商品とすべき。

小泉　一真　議員

・長野市には既に体験型観光の複数メニューはあるが、売れる企画という視

点で改めて内容を考慮する必要があるとのありがたいご意見をいただいた。

参加者③【大岡地区】

・体験型観光、体験メニューは各地域の住民の皆さんと作成しているはず。それにより観光客が満足することに加え、地域住民の生きがい、地域の活性化ともなる。最初からメニューを絞らず、様々なメニューを作って観光客に提供してほしい。

参加者⑧【更北地区】

・今の意見に関連して。長野市は以前に観光メニューで「まるごと体験ブック」を作成、配布していたが、コロナ禍もあり、内容が止まっている。観光メニューとして既にあるものの、自分たちが気づいていない多くの企画があり、また、新たに様々な提案がある。それら全てを把握したり、メニューを提案した地域だけで宣伝・売込みしたりするのは困難。行政の支援がいる。

参加者⑤【篠ノ井地区】

・議員で、戸隠森林植物園を訪問されている方はいらっしゃるか。植物園では木道がかつて整備されていた。入り口は県の管理、奥の大部分は国有林であるが、経年劣化している部分が、一部撤去されてしまっている。本日その参考資料を持参した。（会場でコピーして配布）当地は国有林であり国の管理地だと思うが、市の観光地として重要だと思うので、予算も含めて整備を考えて頂きたい。

参加者⑧【更北地区】

・３年ほど前に長野コンベンションビューロー主催で、スポーツ振興としてスノービーボール（雪上ミニラクビー）の全国大会を飯綱で開催した。しかし、普及させようと白馬、小谷等で体験会をやったり、小学校で競技を紹介したりしたが、現在は縮小してしまっている。この競技を広めるため、再度行政の支援を考えてほしい。

参加者②【芹田地区】

・本議論では、県外・市外からの観光誘客と経済波及効果が主目的であると

思う。スポーツコンベンションも誘致と経済波及効果が主たる目的であると考える。プロスポーツの活用は、地域外からの誘致と経済波及効果が目的であるが、誘客は簡単ではないが活用方法や、どのスポーツがターゲットとなるのか工夫が必要。
・資料の経済波及効果は地域内の消費と地域外の人たちの消費というところはどうなっているか。

小泉　一真　議員
・中学校（全中）のスケート大会は県外からの訪問を想定しているので、地域外からの経済波及効果と考えている。

参加者②【芹田地区】
・スキー客でも修学旅行なのか、家族が一緒なのか、富裕な中高年層なのかで消費が異なる。市として観光客のターゲットをどのようにするのかを考える必要もある。

参加者⑫【千曲市】（オンライン参加）
・宿泊滞在型のスポーツイベントで長野市の各種ホテルを使っていただいているのが現状である。長野マラソン、全中スケート等の様な宿泊滞在型スポーツを誘客するにも施設がないと困難。南長野に施設があるが、東和田の運動公園の施設も必要である。ただ老朽化しており、新設が必要ではないか。

参加者④【吉田地区】
・地域密着型プロスポーツとの連携で、プロサッカーの信州ダービーとして長野市と松本市は大変盛り上がった。今後も続けていくべきだ。この信州ダービーとは別に例えば「長野シティカップ」のような大会を企画し、信州の２チームに加えて海外からチームを招致して盛り上げ、県外から誘客するもの有効ではないか。
・自然、体験というキーワードが注目されているが、まだあったら良いと思う具体的なメニューが見当たらないように思う。例えば農業体験や果物

狩りに関連するメニューがもっとあって、さらに県外客にアピールすると良い。さらに若年層を意識し、夜の観光も提案したい。例えば他市で言えば「夜のいちご狩り」、長野市なら「夜のりんご狩り」で、夜間観光してそのまま市内に宿泊していただくのはどうか。

参加者⑤【篠ノ井地区】

・（配布した資料、戸隠森林植物園内の歩道の写真を見て）歩道がかなり老朽化しており、またバリアフリーになっていない部分がある。管轄が長野市ではない部分があるが、観光客が訪れるので、市としても整備して頂きたい。

参加者⑦【上田市】

・御開帳の観光客であるが、車で来る場合は直接善光寺に行き、駅前や市中心部を訪れることは少ない。駅を使う観光客も同様である。駅前、市中心部の商店街として、御開帳の経済的効果をあまり体感できない。御開帳後の県外からの誘客で、市内商店街の利用や各地域との交流をどのようにしていくのか。

宮崎　治夫　議員

・週末、土曜、日曜の駐車場は混雑してる。善光寺周辺ばかりでなく、駅前、中央通りも観光客に歩いてもらいたい。そのためには観光バスで来るお客に商店街を通ってもらうような仕掛けが必要。
・長野市の人が長野の魅力や店舗を紹介するのもよいが、観光客（海外からを含む）は、ネットで長野市の細かい情報を得ているので、その情報ルートへのアピールが重要。

参加者⑦【上田市】

・商店街の皆さんは集客をどのようにしたらよいか苦心している。市も一緒になって集客の手段を考えていただきたい。

小泉　一真　議員

・以前に戸隠の森林植物園を訪問したことがあるが、現在の状況は把握していなかった。ここの現場はいくつかの組織にまたがっていると思うが、管理で市はどのようにかかわっているのか。

参加者⑤【篠ノ井地区】

・運営は市だが、土地は国有地がほとんどで、一部県の土地があり、複雑な状態。

小泉　一真　議員

・所有者が複数となっているのも管理上上手くいってないかもしれないので、後日調査したい。

参加者③【大岡地区】

・修学旅行については、顧客単価は低いかもしれないが、子ども達を将来の潜在的な観光客とするためにも、誘客の仕組みとして修学旅行は重要だと思う。そのためにも魅力ある修学旅行のメニューづくりに議員も尽力してほしい。そこには市中心部だけでなく、西山地区にも魅力ある場所や企画があるので是非加えてほしい。

・訪れた子ども達が将来リピーターとなってもらうには、その家族へのアピールも重要。今、ネットで訪問地を調べている、ネットでの情報発信は重要。さらにそれが長野市への移住者の増加にもつながると思う。

参加者①【安茂里地区】

・スポーツ、プロバスケットの信州ブレイブウォリアーズで活動している。昨年は約 4 万 5403 人の観客者数、コロナ感染症による中止がなければ 5 万人の観客となったと予想される。経済的効果は 7 億円程度あった。地域密着型プロスポーツと市の連携が企画されているのでよいが、設立で 11 年、長野市がホームタウンとなって 2 年なので、まだまだ支援、協力が必要。バスケットチーム、ブレイブウォリアーズと長野市の自然財産を生かした交流、体験を進めてはどうか。沖縄に沖縄アリーナ（コンテンツ）ができた。他都市を訪問し交流するのも重要なので、体験し、参考にしてほしい。若年層を取り入れるため、参加してもらうよう考慮していただきたい。

参加者②【芹田地区】

・観光もスポーツ振興も短期的と長期的と両方の視点での戦略が必要。長期的には駐車場や道路といったインフラ整備が非常に重要。加えて（顧客層）ターゲット設定も重要。例えば修学旅行だが、大量供給なのでサービスの種類を絞った単純なオペレーションになってしまう。一方で多様なサービスを求める、個別の対応には困難な施設となってしまう。両方の顧客に対応するのは難しい。白馬やニセコのケースでは、顧客のター

ゲットはインバウンドが中心である。競争に勝つためには思い切ったターゲットの設定が必要だと思う。

参加者⑩【坂城町】（オンライン参加）

・地域の皆様は良い活動をされている。ただ、良いものが売れるとはかぎらない。商品が良いと宣伝、認知されないと難しい。京都府民と長野県民の行動を比較すると、観光客に対して一般市民が「これを買ったらいいよ。どこそこに行くのがいいよ。」というような声かけを京都府民の方がよくやるが、長野市民はおとなしい。観光客に対して発信が重要だが、旅行会社だけの情報発信では足りない、行政、市民からの発信も必要。県民人口 200 万人に対して、年間 9,500 万人が来県、訪問している。1 名あたりの消費額は 1 日 3,500 円程度との統計だがちょっと低い。市民がちょっと声をかけたり、情報発信をしたりすればもっと増えると思う。

参加者⑤【篠ノ井地区】

・昨日の朝、バス専用レーンで観光客と思われる県外車が捕まっているのを目撃した。規則ではあるが、わざわざ来県していただいて嫌な思いをされるのは忍びない。注意ぐらいではどうか。

参加者⑧【更北地区】

・スポーツ観戦に来られるお客様で、家族で全員スポーツに興味があるわけではない。スポーツ観戦以外のメニューも同時に宣伝し、家族等にアピールするのはどうか。

参加者⑥【朝陽地区】

・スポーツで信濃グランセローズに長野市は関われないのか、県なのか？観光の活性化は多くの観光客に来県してもらい、経済的効果を出していただくのが目的。経済的効果は中高年や家族で訪問される観光客が高く、若年層はそれほど高くないと思われる。若年層に無理してアピールする必要はないのではないか。長野市をハブとして周辺市町村ともっと協力し、誘客をすべきだと思う。

西沢　利一　委員長

・昨年、この特別委員会が初めて設置されました。特別委員会は 1 年ごとの設置ではあるが、今回の市民の皆様のご意見を参考にして、今後の委員会活動がさらにつながっていくようにしたいと思います。加えて今回の皆さんからのご意見で、長野市は広く多様な地域であり、かつ県都として周辺市町村との連携も必要であることを、あらためて認識させて頂き

ました。本日は、貴重な意見を頂きまして、誠にありがとうございました。

【特別委員会の今後の対応】

市民参加者からは、「長野市民は観光客に対して、おすすめの観光地やお土産等を紹介する声掛けが少ない。」、「体験型観光のメニューは地域の住民の皆さんと作成しており、観光客が満足するだけでなく、地域の活性化ともなる。」、「老朽化した施設の整備を考えていただきたい。」といったご意見や、スポーツ振興による地域活性化について肯定的なご意見を頂きました。

今回いただいたご意見を踏まえ、本委員会といたしましては、観光誘客において、地元の人達の声掛けによって次の観光地等を案内するということは大変重要であると考えるため、それをどうすれば実現できるかについても議論を深めていきます。

また、プロスポーツチームとの連携をすすめること、誘客のために老朽化した施設の整備を進めること、及び体験型の観光メニューを増やしていくことで地域の活性化を図ると共に、多様化する観光客に対応していくことを要望してまいります。

公共交通について　～あなたが利用できる公共交通とは～
【公共交通対策調査研究 特別委員会】

参 加 者：６人（うちオンライン参加者１人）
出席議員：◎小林　義直、〇北澤　哲也、野々村　博美、手塚　秀樹、
小林　秀子、桜井　篤、滝沢　真一、布目　裕喜雄、小林　史子
【◎委員長　〇副委員長】

参加者①【民間バス事業者関係者】

・民間バス事業者としては、維持するには赤字ではいけない。これからの市内の路線網について、市民の皆さんの意見を聴かせてもらい参考にしたい。

参加者②【民間バス運転手】

・民間バス事業所でバスの運転手をしている。意見を聴いて、よりよい公共交通をつくっていきたい。

参加者③【民間バス事業者関係者】

・民間バス事業者の立場で参加。公共交通は、自家用車の利便性には勝てず利用者を減らしている。民間企業が続けるには採算ベースに乗らなければいけないが、これが難しく全国各地で同じ問題が起きている。皆さんから続けるためのヒントをもらえれば。

参加者④【七二会地区】

・中山間地の利便性高い、持続維持が可能な生活の足の確保についてお願いをしたい。

参加者⑤【更北地区】

・コロナの影響で路線バスの本数や路線も減った。これから先どういう考えや見通しがあるか勉強したい。

参加者⑥【市民協働サポートセンター勤務】（オンライン参加）

・市内 NPO 法人から参加。意見交換を聴き、センターと市民を繋げるために出来る事があるか考えさせてもらいたい。

参加者①【民間バス事業者関係者】

・民間バス事業所に勤めて30年。生活環境、居住環境など大きく変わり、廃止された路線も多い。中心市街地と中山間地は違いがあってしかるべき。行政も2022年から３カ年の中期的な計画を作っているので、市民の意見をもっと聴き研究をして、議会が市に提言してもらいたい。

・コロナ渦の２年で、民間事業者が自主営業している一般路線は非常に打撃を受けている。それぞれの地域に入っていき、残すために地元の方々がどんな事ができるかまで考えて、持続できる仕組みを真摯に考えていかないといけない時期に来ている。

小林　義直　委員長

・中心市街地と中山間地のそれぞれのあり方を検討する必要は、委員会でも行政でも考えている。長野市はコンパクトシティに向かって動いているが、そのまちづくりもまだ途上。行政もデマンドなどで努力しているが、中山間地はタクシーも含め考え研究する必要がある。中心市街地もバス停まで行かれないという問題がある。

参加者④【七二会地区】

・七二会の現状。今は移動手段を持たない高齢者と高校生の問題が中心だが、これからは免許返納者も増える。オンデマンドシステムと自家用車で送迎できる公共交通空白地有償輸送法の組み合わせがよいと思う。活用しやすく立ち上げやすい状況づくりを議会がリードしてほしい。信大の協力もいただいて、AI の活用も進めてもらいたい。自分としては、これから高齢になったときに、自宅付近で乗降できる交通を求めている。

小林　義直　委員長

・フルデマンドについては小田切で研究されている。行政は、フルデマンドにしていくための AI の研究も信州新町で始めている。中山間地はその方向で 1 日も早く対応していく。大きなバス停やスーパーに協力をいただきながら、長野市の交通政策課が進めている。

野々村　博美　議員

・議会の中でも仕組みそのものを変えなければという話が出ている。中山間地は、厳しい状況だが住民と行政、事業者が何とか力を合わせて構築のための努力をしているが、住宅街・中心市街地は、住民の意見を十分に把握したり地域全体で考えていくという事が出来上がっていない。議会としても積極的に住民の皆さんと議論してすぐにも取り組まないと、交通弱者にとって深刻になっている。

参加者③【民間バス事業者関係者】

・「補助金」について、かなり誤解がある。バス事業者が赤字経営をしているので補助金が支払われている、ということではない。個々の路線ごとに、国や市と協議をして認められた部分について欠損としていただくのが補助金。市内の多くが補助金路線で、バス会社が自主的に運行出来ている中心部の何路線でも、利益が出る路線かというとそうではなく、行政に救済をお願いしないで何とか事業者が維持していくという路線

参加者⑤【更北地区】

・ぐるりん号の視察についてお聞きする。今は190円だが昔は　100円で１コインだった。それが150円、２コインになって、今は６コインに。今コロナで外国人の方はいらっしゃらないが、不慣れな人には　200円にした方が親切だったのではないか。それともKURURUで払うから問題ないのか。

布目　裕喜雄　議員

・篠ノ井ぐるりん号に乗車。190円というのは中心市街地の値段。利用者の方から理解をいただいて　200円にするのもひとつの方法とは思う。ただ、できれば安く便利にという声も多い中、190円への値上げはやむを得ないということで議会として承認した経緯がある。午前10時台に乗って利用者が２人。ポイントに停まるよう運行経路は設定されているが、片道運

行なので時間がかかる。これまで住民と協議をしてたびたび路線の変更はして来ていると承知しているが、もう少し住民の声を議会も市も聴き取っていく必要性を痛感した。

小林　史子　議員

・中心市街地ぐるりん号、午後１時台に乗車。地元の方と観光で来た方で、思ったよりも利用者が多かった。一周するのにあまり時間がかからず、県庁方面との利便性はよいと感じた。料金は、観光に来た方などは 200円というのは払いやすいかもしれないし、日常的に使っている方は少しでも安い方が、ということもあるだろう。利用する方によって違いがあると思う。

滝沢　真一　議員

・東北ぐるりん号の２時台に乗車。１周の間に15人乗車。この時間にしては多くの利用があるという印象。停留所や細かく生活道路を回るルートなど、利用者のことを考えている。日常の足としての利用で、中心市街地とは違いがある。片側周りしかないので改善の余地はある。利用者はKURURUを利用していたので小銭という問題はなさそう。今利用していない人に声を聴いていく必要はあると感じた。

北澤　哲也　副委員長

・自分は中心市街地に乗った。長野駅での乗り換えの接続も確認したが、利用者がある程度固定している印象。今の路線との接続も、さらに進めていく必要があると感じた。

参加者⑤【更北地区】

・KURURU の割引は今 1 割引きだが、観光客ともっと格差があってもよいのでは。

北澤　哲也　副委員長

・我々の議論の中ではSuicaのようなものを利用できるようにして利便性を高められないかという議論はある。意見として伺い委員会で議論して理事者側に提案できるようにしたい。

参加者⑥【市民協働サポートセンター勤務】（オンライン参加）

・「乗って残す」という話があったが、具体的にそのための施策を考えているか。市長が代わり、子育てに力を入れているが、子育て世代が利用するにあたり、力を入れなければいけないことをどう考えているか。

子育て世代から、どこの路線に乗ればどこに着くかがわからず使いにくいと聞く。

布目　裕喜雄　議員

・アルピコ、長電に協力いただき、小学生、高齢者を対象に「バスの乗り方教室」を毎年行っている。まちづくりアンケートで「利用しやすい公共交通の構築」という項目は順位が高い。行政・議会が、事業者や市民の声を聴きながら路線バスのバス停に乗り継ぎができるような連携を考え、利用に繋がる見直しを絶えずしていく事が大事。お出かけパスポートについて更なる活用を検討していくのも１つの課題

参加者⑥【市民協働サポートセンター勤務】（オンライン参加）

・高齢者だけでなく、子育て世代も使え、若い世代から使うことで継続して利用していけるような仕組みがあるとよい。

布目　裕喜雄　議員

・長野市は、路線バスだけでなく、市営バス、乗り合いタクシーでも使える「バスロケーションシステム」も導入したが、スマホを持っていて使い方もある程度熟知していないと使えないという課題もある。若い皆さんにさらに使いやすく利用してもらえる工夫も必要

北澤　哲也　副委員長

・子育て世代が使えるパスポートについて、委員会として受け止め理事者側と考えていければと思う。

参加者②【民間バス運転手】

・利用しやすいということは、運転手をやっていて、長野駅でよく「ここに行きたいけれど、どれに乗ればよいか」と聞かれる。長野駅に大きなビジョンなどで「どこに行くには何番乗り場でどの路線」というシステムを作っていただけるとよい。

北澤　哲也　副委員長

・他市の駅前でそのような案内を見かける。駅前整備とあわせて検討させていただきたい。長電バスのスマートバス停について、効果はどうか。

参加者②【民間バス事業者関係者】

・時刻表を大きくすることしか出来ない。須坂市では「足あとランプ」というバスロケの仕組みを導入し、バス停にバスが来たという表示が出来るが、お金がかかるので全部のバス停に展開は難しい状況

北澤　哲也　副委員長

・「新じんば号」が長野市に来る流れになったが利用状況や使い勝手の感想などあれば。

参加者④【七二会地区】

・利用した事がないのでわからないが、空気バスという印象。オンデマンドと空白地有償輸送の両方を合わせた形で組み立てれば、経費的にも出費が少なく充実した内容にできるのではと思う。空白地有償郵送については、事例などを長野市で精査してもらい、長野の実態にあったものを１つケーススタディとして作ることを議会からも働きかけてもらいたい。
もう１つ、新じんば号は安茂里のデリシアまでで、長野駅まで直接行くことができない。出来ないわけがあるのか。

北澤　哲也　副委員長

・ぐるりん号に関しては、元々中央通を走っていたが、民間バスへの影響を避けるため路線を代えた経緯がある。一概には言えないが民間バスと新じんば号もそのような事があるかもしれない。

参加者④【七二会地区】

・料金を上乗せしてもよいから、長野駅まで同じ椅子に座っていけるという形で弾力的にやってもらえれば、利便性は非常に高まると思う。

北澤　哲也　副委員長

・先ほどの５コインより２コインという話と共通するが、利便性を求める方と、高いと乗らないという方との兼ね合いが難しいところ。要望として承る。

小林　義直　委員長

・今の議論は小田切でぐるりん号を設定するときもあった。先ほどの補助金という表現、これは欠損金だと思っているが、通学バスや福祉バスは全

部を足せば大きなお金だが必要だから出ており、議会も賛同している。欠損金は税金で賄っているので、長野市に税金を払っていない観光に来た方についてはそういうことも考えてよいのではと思う。

参加者①【民間バス事業者関係者】

・高齢化が進む中、中心市街地でも中山間地でも個人は自分の乗りたいところから降りるところまでを希望すると思う。太い幹を大量輸送できる大きな器とし、細い毛細血管は少し機動性のある小さな車としたら、どこかに結束点を設けなければいけない。その構築が一番必要。少し不自由を感じながらも利用していかないと維持できない。

・市としてある程度の方向性が出たら、しっかり説明してもらいたい。その中で民間事業者でできることもあるかもしれないし、欠損補助等を市がする形で地域の方々にも公共交通に対して投資してもらわないと厳しいのではないかと思う。ぜひ今日の話題を地域でもしてもらい、住んでいる人たちにも考えてもらいたい。

野々村　博美　議員

・七二会在住の参加者④さんからも、有償を考えた方がよいのではと話があったが、市でも社協で福祉自動車を運行している。それはボランティア中心で、という工夫をされているが、住民の利便性というより限られた利用しか出来ない状況。改めて今日の話から、空白になっている、なりそうな地域の使い方を工夫しながら埋めていくことを話し合っていかれるとよいと思った。

参加者④【七二会地区】

・資料をみると、市営バスの路線がとても長いが利用者は少ないと思う。コストの点検をする時期は。合理化を考える必要があるのでは。

布目　裕喜雄　議員

・合併に伴って市が運営している部分だが、路線の見直しはかなり頻繁に行っている。ただ、利用者数は課題と把握している。コスト論では捉えられない難しい問題がある。

参加者④【七二会地区】

・バスをそのまま使っているのでは。

参加者③【民間バス事業者関係者】

・ジャンボタクシーや小さいタクシーを使っている。再編しながらかなりコ

ストダウンしてきた。ただ運賃は、市バスは非常に安く、民間事業者だと遠くに行けばいくほど運賃が上がるという実態がある。事業者としては、費用対効果で平等に負担してもらった方がよいかなと思うところはある。タクシーも公共交通と位置づけられると思うが、高いけれどもドアツードアで、山間地から街の中心部まで自分の好きな時間に行かれる。乗り物の対価を考えてもらうと、もう少し交通体系全体がはっきりすると思う。

参加者⑤【更北地区】

・そう遠くない未来に自動運転がある。でも、スーッとそこに行くわけではなく、間に大きな崖があるのではと思える。今までの交通体系が壊れて非常に困って、新しい交通体系ができるのではないか。それを頭の隅に置く必要があると思う。

北澤　哲也　副委員長

・まだ自動運転については議論していないが、都会と違い、長野は山あり谷あり雪も降る、というところで、交通政策課ではなかなか導入が難しいのではないかという話は聞いた事がある。我々も頭の片隅にしっかりと入れて議論していきたい。

参加者⑥【市民協働サポートセンター勤務】（オンライン参加）

・自動運転の話が出たが、善光寺から駅まで完全に自動運転にして、まちづくりと結び付けていくなど、飛びぬけた考えで長野市のまちづくりを考えていくのも面白いと思う。

北澤　哲也　副委員長

・観光面でも導入できるか検討をしていきたい。
本日出していただいたご意見は、今後の委員会の中で議論していきたい。

【特別委員会の今後の対応】

交通弱者は、中山間地域だけでなく、市街地や住宅地にも多く存在しますが、公共交通だけで全てを補完することは困難です。「乗って残す」ことが前提ですので、まずは市民が公共交通を使いやすい環境にしていくことが必要なことであると考えます。

拠点と拠点を結ぶ基幹路線と、各エリアを循環する路線とを結ぶ場所はどこが適切なのか、それぞれの停留場の場所はどこが適切なのかを決定していくには、地域住民やバス事業者との話合いが必要であり、今後も継続して行っていくべきものであると感じました。

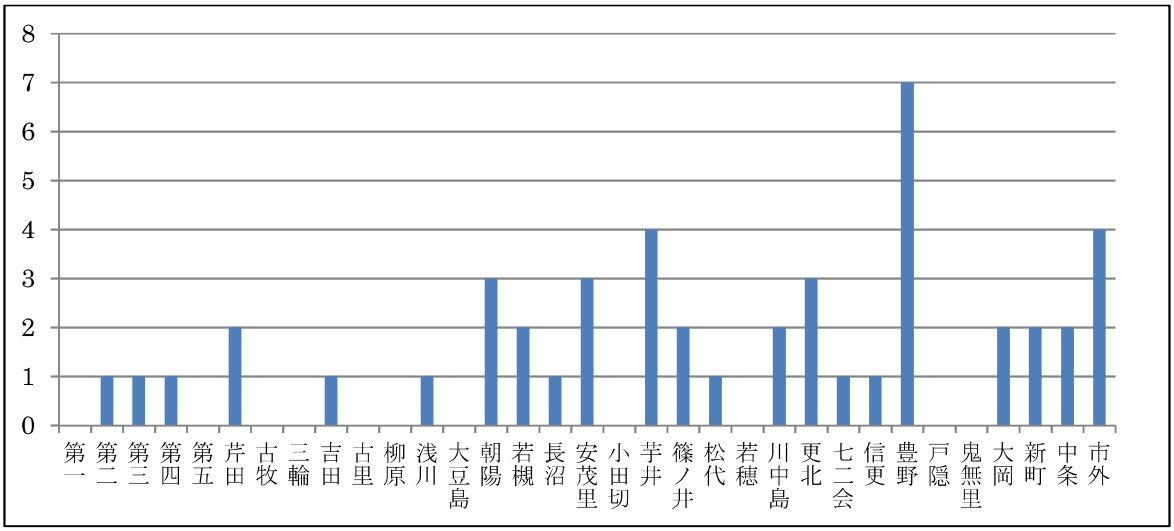
高齢者や障害者を対象とした「おでかけパスポート」はありますが、意見交換会の中で提案していただいたように、今後は子育て世代が使えるパスポートや学生向きのサービスなど、様々な世代のニーズに合わせたサービスを提供しながら、市民が公共交通を使う機会を増やすための取組をしていく必要があると感じました。併せて「KURURU」についても、さらに使いやすいものとなるように工夫をしていく必要があると感じました。

スマートシティ、ＡＩ化が進む中で、様々なデマンドの運行方法や自動運転など最新の技術の活用も検討項目としながら、引き続き調査・研究に取り組んでまいります。

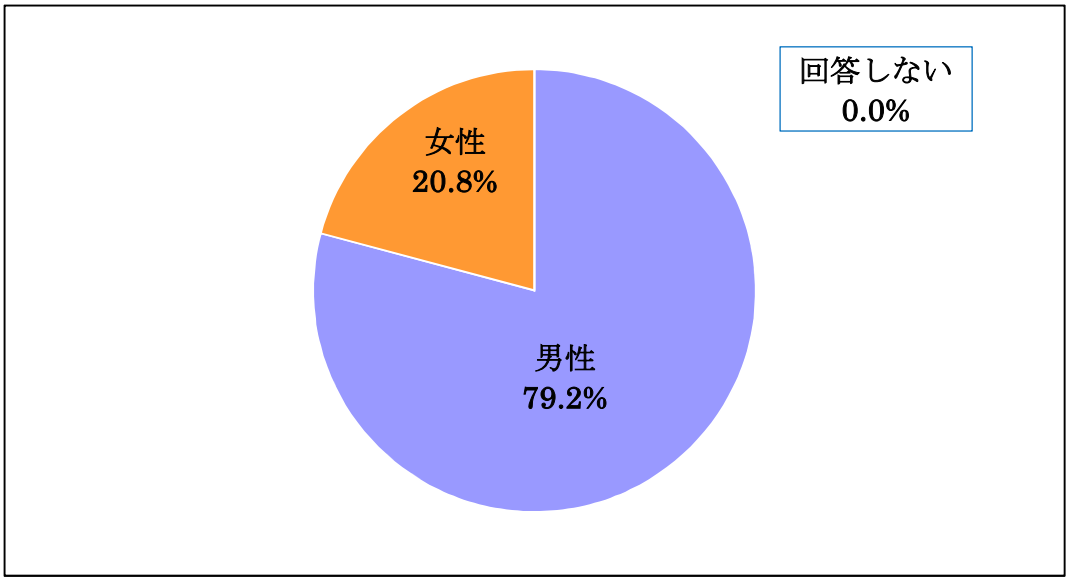
Ⅲ　参加者アンケートの結果

52人の方に参加していただき、48人の方にアンケートにご協力いただきました。

◆問１：お住まいの地区をお伺いします。



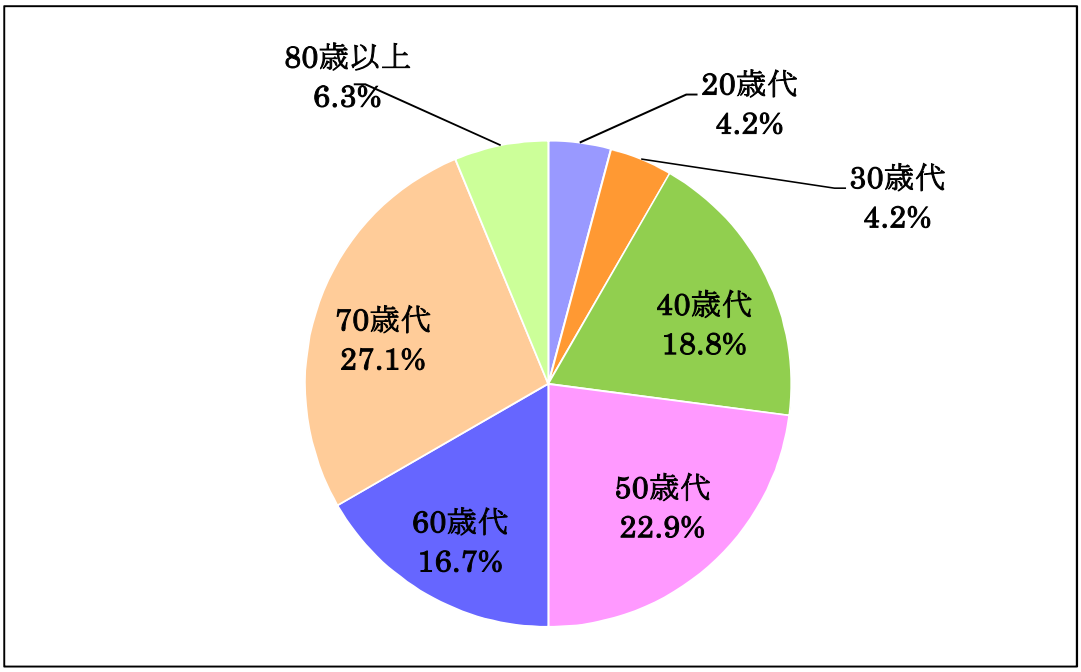
◆問２：性別をお伺いします。



（※回答の構成比は小数第２位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならない場合があります。）

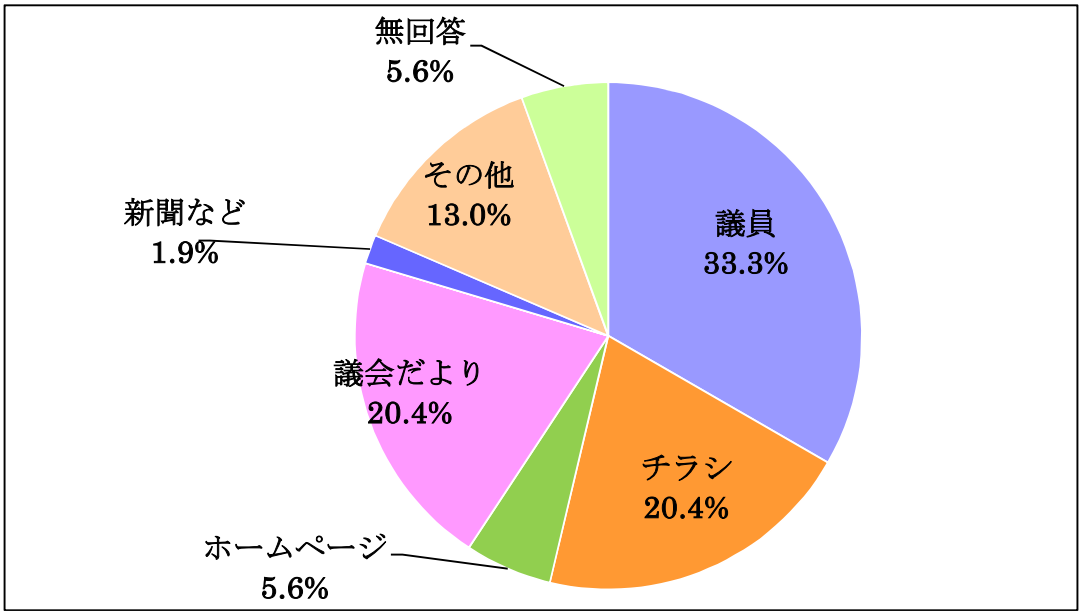
女性の参加者が２割程度に留まりました。

◆問３：年代をお伺いします。



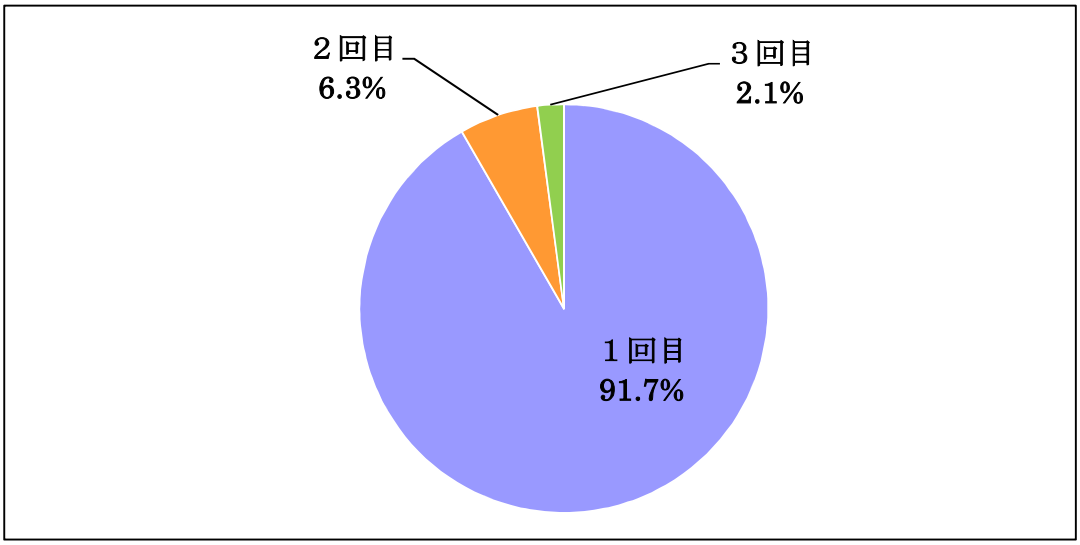
70 歳代の参加が 27.1%で一番多く、次いで、50 歳代、40 歳代と続きます。10 歳代の参加はありませんでした。

◆問４：意見交換会の開催情報は何からお知りになりましたか。



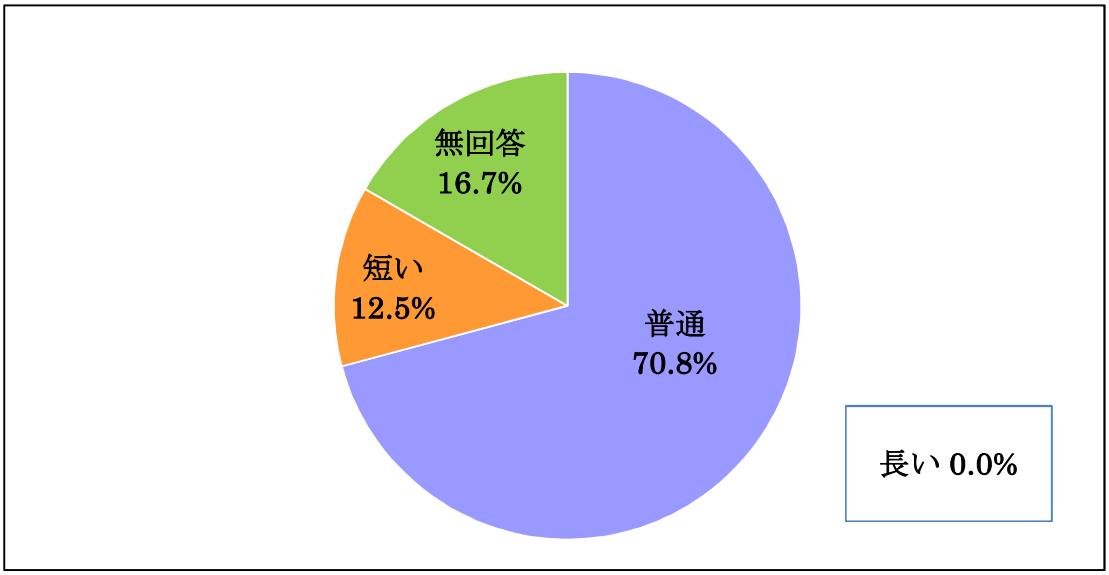
議員、チラシ、議会だよりで 74.1%でした。コロナ禍での開催でしたがチラシを見て参加してくれた人も多くいました。

◆問５：「市民と議会の意見交換会」は今回で４回目の開催となりますが、何回目の参加になりますか。



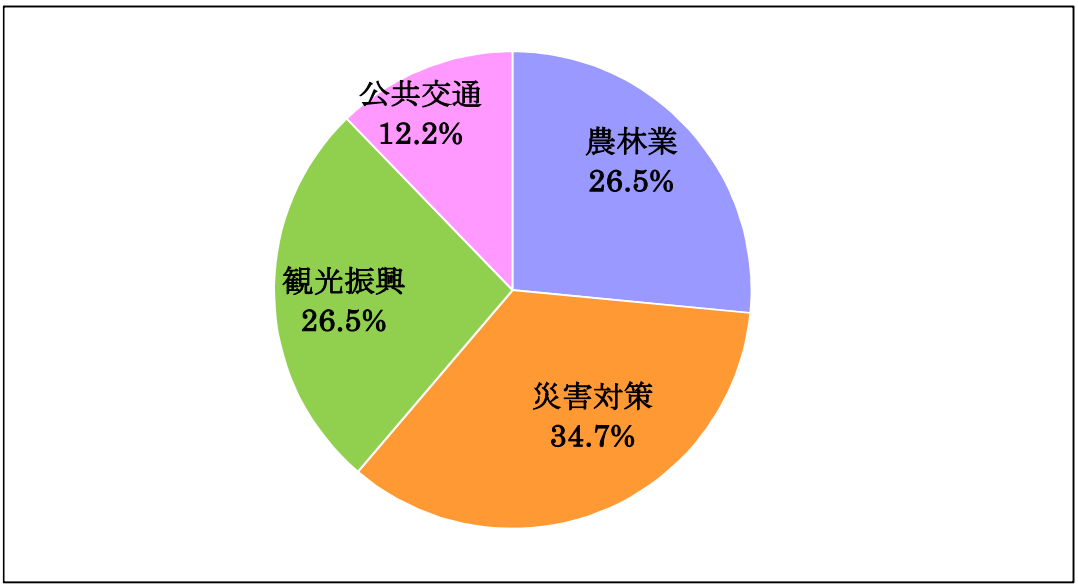
意見交換会は今回で 4 回目の開催になりますが、初めての参加者が 91.7%でした。

◆問６：意見交換会の時間はいかがでしたか。



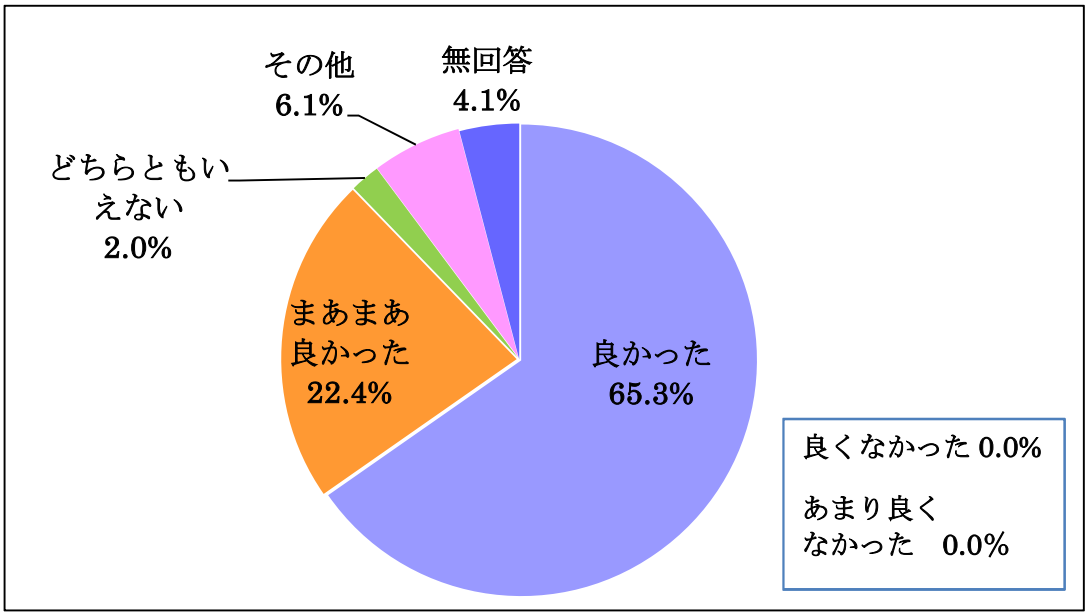
７割の方が普通と答えています。短いと答えた方も 12.5%いました。

◆問７：意見交換会はどのテーマで参加しましたか。



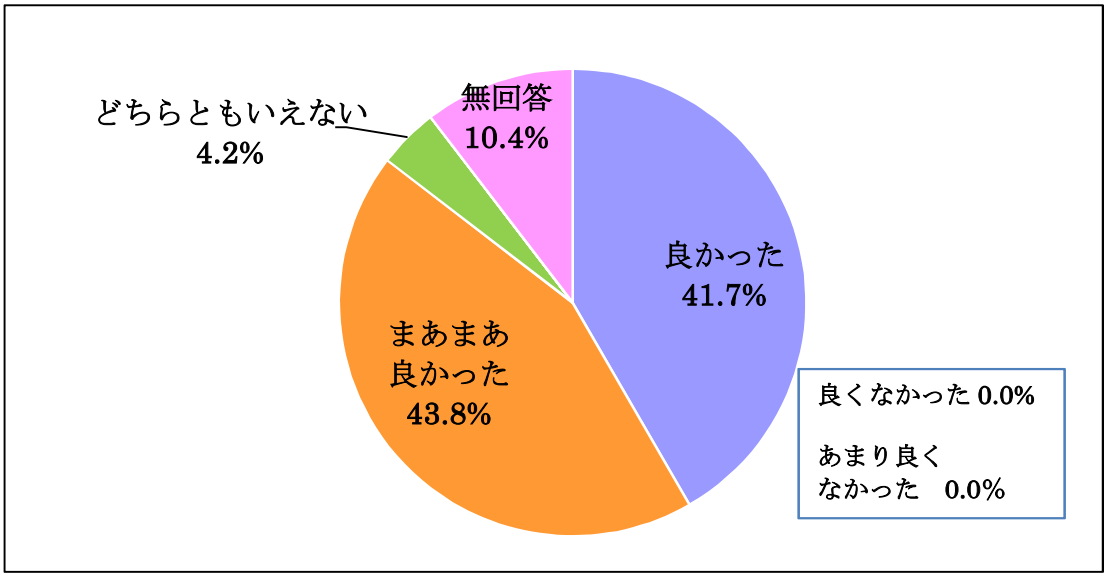
「災害対策」は参加者が最も多く、「公共交通」はやや少なめでした。

◆問８：意見交換会の「テーマの選定について」はいかがでしたか。



『良かった』『まあまあ良かった』を合わせると 87.7%の参加者に喜んでいただきました。

◆問９：今回の意見交換会はいかがでしたでしょうか。



『良くなかった』という意見は０％で、『良かった』『まあまあ良かった』を合わせると 85.5%の参加者に喜んでいただきました。

問 10　今後、意見交換会に望むこと、開催・運営方法等について、ご意見がありましたらお書き下さい。

・限られた時間の中での意見交換会をもっと有意義なものにするために、参加者から事前アンケートを取り、それをとりまとめた資料をもとに意見交換を開催してはどうか。

・市民の自己紹介は時間がかかるので、質問の際少し話すくらいで良かった。

・市民の発言時間は守ってもらうよう、長々と話されると不満がたまるので仕切っても良かった。

・Zoom など事前の準備は事前に完了しておいていただけるとありがたい。

・発言の時間管理も必要

・発言時間の管理など参加者からより効率的に意見を聴く方法を考えられた方がよいと思う。

・自己紹介は一人何秒程度と決まりをつけた方がよいと思う。

・論点がずれた時には、委員の方で軌道を修正していただけるとより活発な意見交換ができると思う。

・質問、意見陳述時間の設定をしっかり行い、流れを作っていただきたかった。
・発言が聞き取りにくい人が多い、事前に指導すべき。
・開催回数を増やしてほしい。
・それぞれ伝えたいことがあるのでもう少し少人数で何回も開催した方が良い。本音が伝わらないと変わらない。
・半年に１回くらいで意見交換会を定期的に開催してはどうか。
・定期的に開催されることで広く市民の声を集めていただけてありがたい。
・少人数でグループごとに会話をできるようにしてはどうか。
・ワークショップ形式などを導入してもっと意見が共有される形式を考えてほしい。
・テーマに沿ったファシリテートをしっかり行える仕組みにしていただきたい（注意等。外部活用も選択肢）

・Zoom にて参加しましたが、このような取り組みは今後も続けて頂ければと思う。
・議員との意見交換会のはずが議員の意見は全く聞けなった。これでは市民陳情会にとどまってしまう。
・議員の発言者が限られていた。
・担当地域や得意不得意などあると思いますが、委員の方々からも全員の意見や考え、施策に対する思いなどを聞くことができたらと感じた。
・一般の人の意見もしっかりと聞いてほしい。
・私もそうですが、高齢者が多かったので若い方が参加できる方法を考えていただきたい。高校・大学生の参加を進めていただきたい。
・もっと多数の、それぞれの地区の市民の出席が必要
・20 代の方の参加していただき、意見をお聞きしたかった。
・議員と共に市の農林業担当職員の意見もいただきたかった。
・様々な考えや要望があり議員さんは大変だと思った。

・初めての参加でしたが、このような機会はとても大切だと思った。

・目的が明確で良かった。

・テーマを分割するとより良い。

・今までの会議でどのようなことが話されていたのかわからない。

・会議の継続性を持たせてほしい。

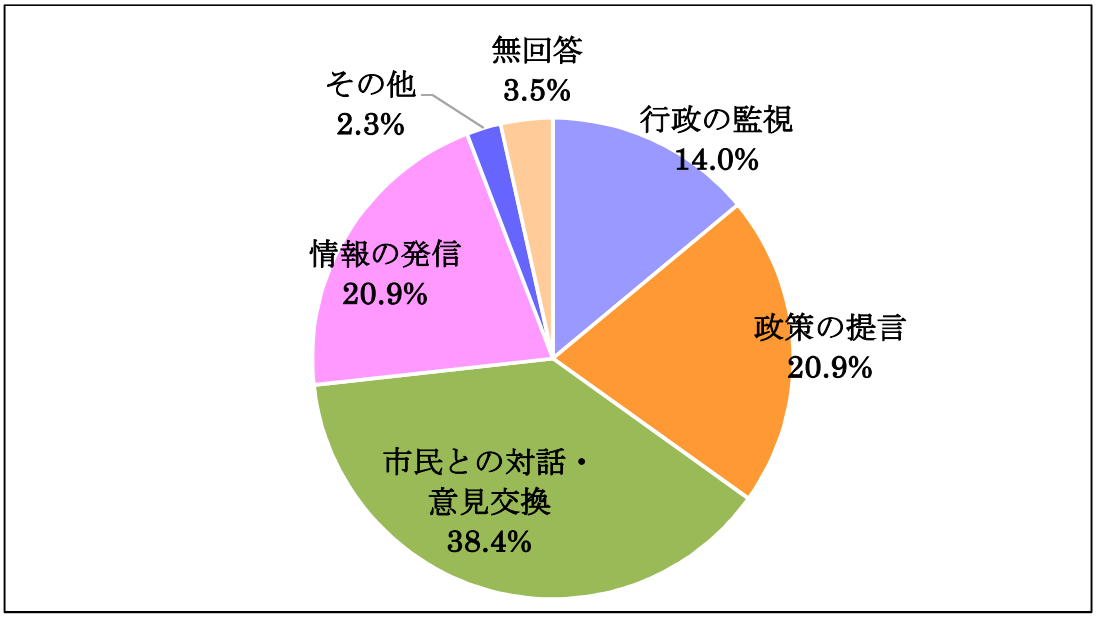
・本日の内容を市民一人ひとりに浸透していきたい。

・資料は良かった。

・提供の資料について、現在の実態が読み取りやすい資料が欲しかった。

・資料のギャップが凄くて違和感を覚えた。

問 11　市議会に期待することはどのようなことでしょうか。



『市民との対話・意見交換』に期待する声が 38.4%と最も多くありました。次いで、『政策の提言』、『情報の発信』に期待する声と続いています。

ご協力ありがとうございました。